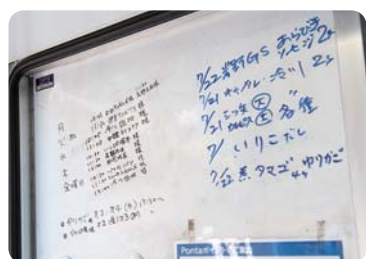


ジュース、洗剤やティッシュペーパーなどがギッシリ。欲しい商品は、リクエストすれば次の機会に持ってきてくれます。移動の不便さを解消すると同時に、密集を避けながら安心して、さらには満足いく買い物ができるので、住民から喜ばれているのも納得です。

2〜3年前から移動販売を導入したローソン函南町上沢店。巡回する地区の選定や、現地での駐車場の確保の橋渡しなどを社協が行った縁がありました。採算が取れない地域では継続が難しいという課題がありました。今回、赤い



リクエストが書かれた販売車のホワイトボード

羽根共同募金の助成金を財源に社協がガソリン代を負担して解決することができました。住民の1人で、社協と住民たちの橋渡し役となっている渡辺さんは「かなみお買い物サポート」のメリットは思っていた以上に大きいと言います。「私などが少し



冷川団地の橋渡し役、的存在である渡辺和信さん

離れたスーパーへ行く時に買い物を引き受けることもありますが、小さいバックや少量のものは頼みづらいという人が多い。移動販売車は団地のすぐそばに来てくれるから、自分で買い物するにも、人に頼むにしても気軽にできるようです。また買い物に便利になるだけでなく、住民とコミュニケーションを取るきっかけにもなるのとこと。二人暮らしの高齢者が多く様子を気にかけているものの、用事がないと訪ねづらい。今は移動販売が来てくれると『ローソンが来たよ。買い物行く?』などと声を掛ける口実ができ、元気がどうか様子を見ることができると、見守り支援にもつながっているようです。住民同士の交流の場にもなり、団地や山間地に不可欠な自助・共助・公助の一端を担っていると言えそうです。赤い羽根共同募金の活用により、地元住民の

ニーズに合ったサービスを事業化でき、まさに、たすけあいの輪が広まっている事例だと感じられました。赤い羽根共同募金が、じぶんの町を良くするしくみとして、しっかりと地域福祉の推進につながっています。



移動販売を担当する 渡邊さん

売上アップというよりも地域貢献の意味で移動販売を始めました。バスで買い物に出掛けると時間がかかるし、特に高齢者は重いものを持って歩くのが大変。生活に欠かせない買い物サポートは、利用者から「来てくれて助かるよ」と言われて、やって良かったと感じます。近くで買い物ができるから、夏は特に「アイスが溶けない」と喜ばれました。

お買い物で
地元をサポート!



赤い羽根共同募金が、ここを支援!

採算が
取りづらい地域…

助成金を活用して
ガソリン代をカバー!

コロナ禍で
声掛けができない…

チラシを活用して
安否確認も気軽に!

コロナ禍にも
真価を
発揮する

赤い羽根共同募金



今年も「赤い羽根共同募金」の募金運動が始まります。
寄付金は、地域福祉や災害時など様々な場面での支援に活用されています。
最近では、新型コロナウイルス感染症の影響下でも、その真価を発揮。
そこで、コロナ禍に対応した赤い羽根共同募金の助成金を活用した事業取材しました。



左から、社協の中村美那子さんと鈴木温子さん

函南町の「冷川（ひえかわ）団地」には、週に2回、地元のローソンから移動販売車がやってきます。町の社会福祉協議会（社協）が、赤い羽根共同募金の助成金を使ってローソン函南町上沢店に協力を依頼し始まった「かなみお買い物サポート」です。冷川団地は公共交通機関が通っていないうえ、高齢者が多いこともあり、自家用車を持っていない世帯も多く、新型コロナウイルス感染症への不安から外出を控える人が増えていまし

た。そこで、「新しい生活様式」が提唱されてきたことをきっかけに、社協の生活支援コーディネーターの中村さんが、共同募金担当の鈴木さんと連携して、コロナ対策を踏まえて、今までの当たり前を変え、お店が移動してくることを取り入れようと発想。赤い羽根助成事業として実現させました。

到着した移動販売車の中には、野菜や卵などの生鮮食品から、惣菜、レトルト、お米、パックの牛乳や



不便さや3密の不安を解決!
かなみお買い物サポート

～いま、コロナ禍で困っている方を支える事業に～
 “赤い羽根”新型コロナ対策いのちをつなぐ支援活動事業

子育ての悩み／虐待を防ぐ相談

ステイホームで増えるイライラ、ぐずる子どもとの生活不安を電話やネットで相談受付
 (子ども虐待防止センター・しずおか)

いのちをつなぐフリーダイヤル

コロナ禍で心の拠り所を求める方に寄り添う電話相談(浜松いのちの電話)

コロナ禍で住居を 失った方への支援活動

(POPOLO)

他



静岡県共同募金会では、食支援の「フードバンク応援事業」と並び、相談支援、居住支援として「いのちをつなぐ支援活動事業」を総額500万円の助成枠で申請を受け付けていました。コロナ禍で様々な課題を抱えている方を多岐にわたる支援活動を行っています。

相談支援と居住支援も。
 “赤い羽根”新型コロナ対策「いのちをつなぐ支援活動事業」もスタート

赤い羽根共同募金が、災害時にも役立てられています！

令和3年7月大雨災害義援金の募集をはじめ、被災者とボランティアをつなぐ「災害ボランティアセンター」の立ち上げやボランティア活動経費を支援しています。(熱海市、沼津市、富士市)

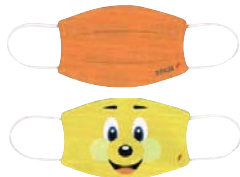
今年も始まる「赤い羽根共同募金」

昭和22年に「国民たすけあい運動」として始まった赤い羽根共同募金運動は赤い羽根をシンボルに、今年で75回目を迎えました。毎年10月1日から6ヶ月間、全国一斉に行い、また、12月中は「地域歳末たすけあい募金」「NHK歳末たすけあい」、1～3月には「課題解決プロジェクト募金」も実施します。コロナ禍が長引く中、これまでに集まった寄付が様々な支援の形につながり、たすけあい運動、の真価を発揮。地域福祉の推進に役立てられます。このような時だからこそ地域福祉のため、今年もご協力をお願いします。

募金活動には、こんな形で参加できます！

● 寄付つき商品(募金百貨店プロジェクト)

仮想の百貨店「募金百貨店」の登録企業が企画・販売する寄付つき商品の売り上げの一部が赤い羽根共同募金に寄付される仕組み。商品第1号となった(株)エスパルス「オリジナル洗えるマスク」、はごろもフーズ(株)缶詰リングコレクションなどにより、令和2年度は257万円余りが寄付されました。



サッカーJ1清水エスパルスオリジナル洗えるマスク



はごろもフーズ(株)缶詰リングコレクション

● 社会貢献型自動販売機



清涼飲料水の売り上げの一部が自動的に共同募金に寄付される自動販売機があります。飲み物を購入すると同時に募金に参加できる仕組み。

● 街頭の募金箱

駅前やスーパーの入り口などで募金箱を持って呼びかけが行われます。また、お店のレジや会社の窓口などに募金箱が置かれていることもあります。

● インターネット募金

パソコンやスマホから気軽に募金ができ身近な地域や分野を選んで寄付ができます。

● 課題解決プロジェクト募金 ※1～3月実施

地域の福祉課題解決に取り組む団体が自ら募金を呼び掛けます。寄付する人が使いみちを選択して募金できる仕組みです。

● ほかに…

自身の財産や相続した財産を、共同募金会を通じて地元地域の福祉のために活用できる遺贈・相続寄付や株主優待券も受け入れています。

社会福祉法人静岡県共同募金会

静岡県葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉館内 TEL.054-254-5212 <http://www.shizuoka-akaihane.or.jp>

ホームページ



ネットでも寄付する



case 02 “赤い羽根” 新型コロナ対策 フードバンク応援事業

全国に先駆けて食支援を実施。

新型コロナの影響により、十分な食事ができない人たちの増加。食品の無償提供の依頼が増加。フードバンクでの対応が急務となり、静岡県共同募金会は、支援策として、令和2年3月から、フードバンク応援事業を始めました。NPO法人フードバンクふじのくにでは、市役所や社会福祉協議会をはじめ、ひとり親家族の支援団体等を通じて食品提供の希望を受け付け、各世帯の状況やニーズをふまえ、1回あたり2週間分の食品を提供します。主食や副食などのいわゆるごはんものから、ベビーフード、お菓子などの嗜好品、コーヒーや紅茶といった飲料まで企業・個人の寄贈による食品が集まるフードバンク。「ただおなかを満たすだけでなく、QOL(Quality



of life＝生活の質)の向上につながることも考え、お年寄り世帯には柔らかい食品、お子さんのいる世帯にはお菓子を入れるなど工夫しています。また、開けた時に明るく楽しい気持ちになるような内容の選定や詰め方も工夫しています」と、スタッフの金澤さん。箱一杯に詰まったバラエティー豊かな食品には、お腹も心も満たされそうです。

暮らしの不安を少しでも早くサポートしたいと思っています。

フードバンクふじのくに
金澤一輝さん



赤い羽根共同募金が、ここを支援！

フードバンクふじのくにが助成金によりできるようになったこと。

- すぐに食べられる食品を購入できるようになった。
- 冷蔵品・冷凍品、生鮮食品に対応できるようになった。
- 食品の送料を法人で負担できるようになった。
- 有償ボランティアを雇用し、体制を強化できた。

実際に利用した人からの声もいただきました！

お菓子や離乳食をいただき、子ども達も大喜び。生きる希望が持てました。

コロナで収入が減り厳しい生活していますが、お米は本当に嬉しいです。

駿河区地域福祉推進センターでは、フードバンクふじのくにから提供を受けた食品を希望者の元へ届けています。希望者は、生活全般に困窮している場合が多く、小さなお子さんを抱えていたり、高齢者世帯・一人暮らしだったり、食事以外にも福祉の支援が必要な可能性もあります。食品を届けるために自宅を訪問することで状況を把握することができたり、その後の様々な支援のきっかけにもなり、とても助かっています。

社会福祉法人
静岡市社会福祉協議会
駿河区地域福祉推進センター
望月彩名さん

